

オンライン シンポジウム マンガ研究家・ 清水勲を 受け継ぐ

基本情報

日時

2021年4月24日[土] 13:00-16:30

出演者

〈第1部〉

宮本大人[明治大学国際日本学部教授]/

新美琢真[川崎市市民ミュージアム

漫画担当学芸員]/

吉村和真[京都精華大学マンガ学部教授/司会]

〈第2部〉

表智之[北九州市漫画ミュージアム専門研究員]/

吉村和真/

イトウユウ[IMRC特任准教授/司会]

主催

京都精華大学国際マンガ研究センター/

京都国際マンガミュージアム

担当

吉村和真/イトウユウ

実施概要 京都国際マンガミュージアムが所蔵する30万点のマンガ資料のうち、コア資料として位置づけられている江戸期の戯画浮世絵や明治・大正・昭和初期のマンガ雑誌等を収集し、それらをもとにした研究で、日本のマンガ史研究の礎を築いたと言っても過言ではない清水勲氏が、2021年3月2日、81歳で亡くなった。マンガミュージアム/IMRCの研究顧問でもあった清水の業績を検証し、受け継ぐことを目的とし、オンラインイベントが開催された。●第1部では、まず、マンガ史研究者である宮本大人が、「清水勲の謎」と題して、清水の仕事をマンガ研究史の中に位置付けつつ、その独特の史観の特徴や可能性、問題点などを分析した。続いて、川崎市市民ミュージアムで学芸員を務める新美琢真が、「清水勲 もう一つの仕事～漫画史の保存と継承～」と題し、清水が開館当初から関わった同館のマンガ資料コレクションの構築と公開について、同館に遺された記録等を紐解きながら紹介した。●第2部では、清水同様、開館前から研究員として京都国際マンガミュージアムの黎明期を支えた、北九州市漫画ミュージアムの表智之も加わり、出演者全員で、第1部における発表を元にした議論や、清水の思い出話などが展開された。

[文責=イトウユウ]

報道

・「清水勲さんの功績回顧」『京都新聞』2021年4月26日